「弟子屈探究」による地域連携の取組

北海道弟子屈高等学校　学級数３　（校長　加藤　誠）

１　学校概要と「弟子屈探究」設定の経緯及び背景

本校は、創立 74 年目を迎える弟子屈町唯一の道立高等学校である。学校教育目標として、「郷土を愛したくましく生きよう」、「自ら学ぶ意欲を持ち続けよう」を掲げ、北海道内外はもとより、地元弟子屈町で活躍する人材を数多く輩出してきた。

特色ある教育活動として、平成 30 年度から学校設定教科「総合」の学校設定科目として「弟子屈探究」を行い、令和４年度からの新学習指導要領施行後も総合的な探究の時間に引き継がれ、学校教育目標に掲げた生徒の郷土愛を育んでいく教育活動の実践となっている。

総合的な探究の時間において「弟子屈探究」を設定した経緯及び背景は、次の２点である。

(1) 高校生と地域人材との交流を通し、地域課題の把握や解決に向けた探究活動を学校と地域が連携して行うことにより、双方の魅力化を目指す。

(2) 探究の成果を外部に向けて発信することにより、地域の活性化に繋げるとともに、本校の魅力を弟子屈町内外に広く発信し、地域を活性化する機会とする。

２　「弟子屈探究」の学習活動内容と工夫

１学年では、「探究活動のメソッド」とし、探究活動を行う上でのスキルを身に付ける学習活動を中心に行うとともに、地域を深く知り、課題を発見するために、地域の観光資源である硫黄山及び釣り・カヌー体験の巡検を行い、これらの魅力を伝えるツアープランを作成している。また、地域の方々と高校生でブースセッション会を開催し、地域の課題について熟議し、高校生が実現できる課題解決策の提案や行動について意見交換をするなどの探究活動を行っている。

２学年では、発見した地域課題について、地域企業や大学等と連携し、アンケート調査、インタビュー、実験、ポスター作成及び作品展示等を行い、探究テーマや課題について探究活動を展開している。また、見学旅行等の機会を活用し、他地域と地元の観光資源や特産品の比較、旅行先との交流等も活動の１つとしている。

３学年では、２学年での探究活動の成果の発表の機会として、令和４年度は「No Maps 高校生ビジネスコンペティション 2022」へ応募した。探究活動の成果を町内外へ発信することで、高校を中心に、高校の魅力化と地域の活性化を目指している。

【アイヌ文化広報ポスター】

【硫黄山にて土壌調査ガイドによる散策】

【ブースセッション会】

３　成果と課題について（成果○　課題●）

○　本校生徒の取組が地域に認知され、高い評価を受けることにより、本校生徒の弟子屈町に対する愛着が高まるとともに、地域課題に対して、主体的に考察し、課題解決のために主体的に取り組もうとする姿勢が見られた。

●　地元企業や自治体と連携した取組を継続してきたが、コロナ禍により連携する機会が制限されてきたことから、これまで築き上げた活動及び関係が途絶えないよう、コンソーシアム等の形成により、これまで以上の連携を図り、教育活動を推進する必要がある。